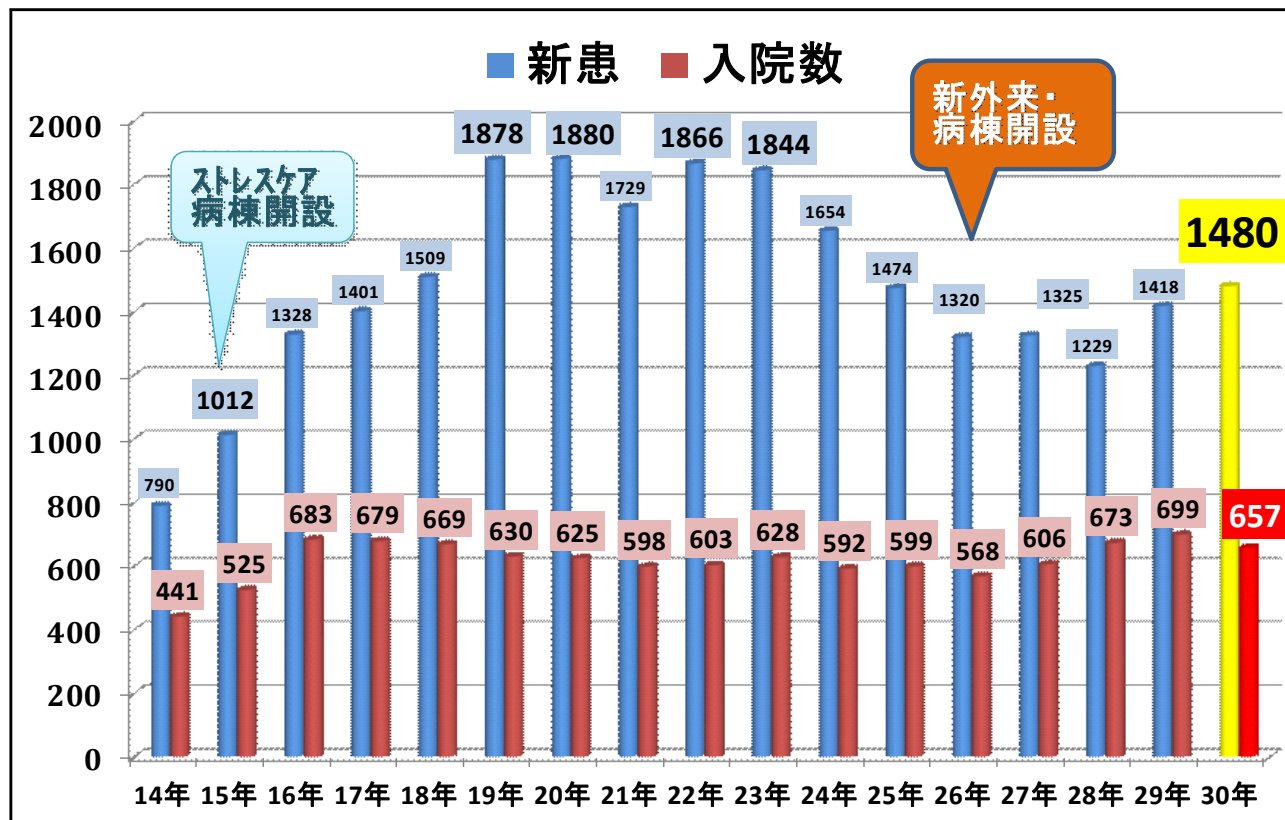


新患統計

1 年度別新規患者数・入院者数

平成 40 年度の新規患者数（カルテベース）は 1480 人で、昨年度の 1418 人よりも増加している。平成 26 年 6 月から新患は予約制しているの、この数が限度であろう。平成 26 年 5 月からの新棟も既に 4 年が経過した。コンシェルジュの患者さん案内もスムーズになっている。入院者数は 657 人、退院数は 646 人であった。

平均在院数は 182.0 人（病床利用率は 94.3%）である。



2018年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018計
診療日数	21	21	24	22	23	23	22	25	20	24	24	22	271
入院数	48	45	69	41	58	57	52	61	62	57	62	45	657
退院数	46	57	53	41	65	47	59	63	57	51	64	43	646
入院総数	222	220	232	222	236	231	234	237	237	231	247	229	231.5
1日平均在院数	181.5	176.7	179.9	184.9	178.3	183.9	183.6	175.5	183	184	187.8	185.2	182.0
ベッド利用率	94.0%	91.6%	93.2%	95.8%	92.4%	95.3%	95.1%	90.9%	94.8%	95.3%	97.3%	96.0%	94.3%
平均在院日数	119.7	97	91.4	135.3	89.9	106	102.5	87.7	92.2	105.6	89.4	130.5	103.9
平均入院日数	126.2	69.5	71.4	77.9	119.1	70.8	63.7	134.9	88.4	137.7	203.8	53.2	101.4
初診患者数	130	152	160	165	184	183	243	166	132	179	179	146	2,019
新患数	80	98	98	101	122	128	115	123	84	119	125	93	1,286
患者延べ数	4797	4749	5210	5116	5452	5303	5562	5661	4638	5552	5215	5000	62,255
外来実人数	2754	2734	2829	2819	2878	2836	3021	2933	2768	2947	2943	2897	2,863
一日平均患者数	154.7	169.6	168	170.5	175.8	176.7	179.4	182.6	154.6	179	179.8	161.2	171
一日平均実数	228.4	226.1	217.1	232.5	237.0	230.6	252.8	226.4	231.9	231.3	217.3	227.3	230
時間外受診者	16	17	17	15	23	11	20	29	27	16	17	12	220
20歳未満加算	158	155	158	143	182	186	120	84	78	85	81	91	1,521

2 月別初診・新規患者数

初診患者が多いのは7月でずば抜けている。年金の現況届けのための受診が多いためであるが、令和元年からは7月に集中しなくなるそうである。1月、9月が少ない。新規患者数（当院に初めての受診者）は毎月100人前後で多い月は120人を越える。予診は研修医、心理士、精神保健福祉士、外来看護師がとっている。年金や障害支援区分などの書類関係はPSWの記載で医師の負担軽減に努めている。

3 月別延患者数、実人数

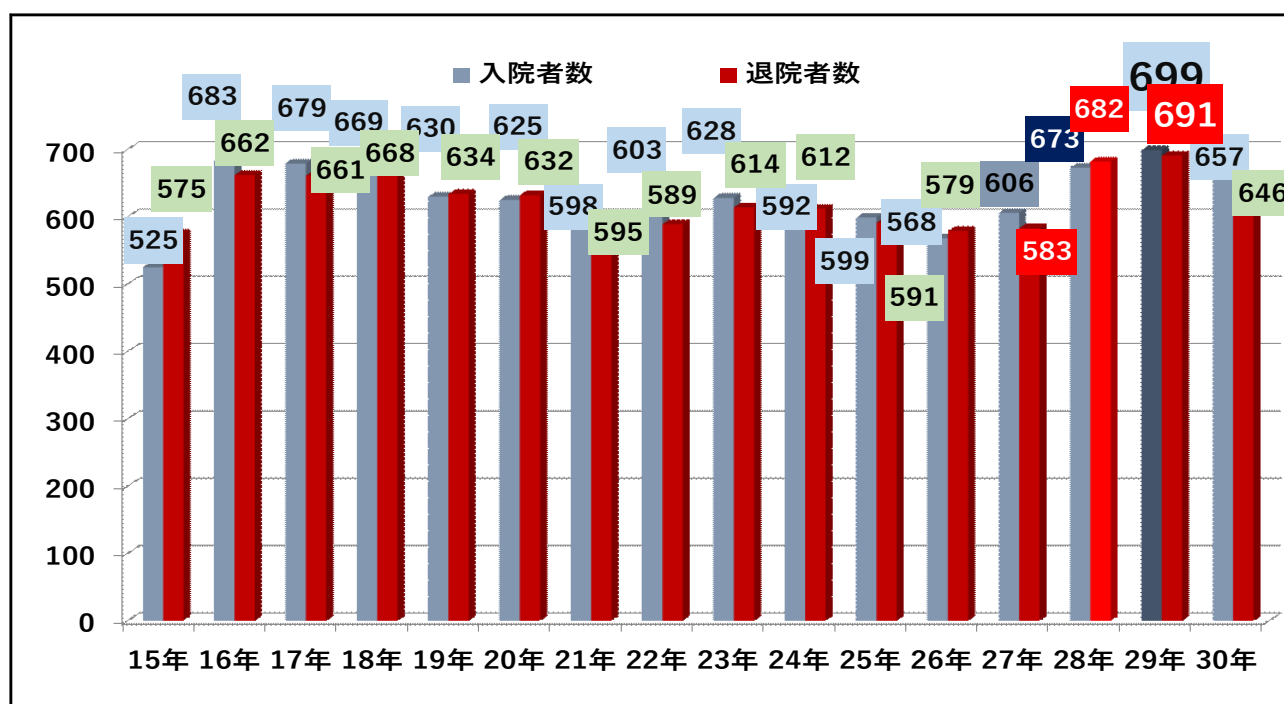
延人数が多かったのは8月である、例年通りであるが、月別には大きな変化はない。実人数は2863人で前年度の2695人、平成28年度の2595人、平成26年度の2427人に比べて着実に年々増えている。外来数の増加には外来が適切に出来る医師確保が必要である。診療の充実を図るためにも、医師の増員、非常勤の採用を検討したい。

4 20歳未満加算数

当院では、平成27年11月からはじまった札幌市児童思春期のコンシェルジュ事業にも対応している。札幌市内では5ヶ所の医療機関が窓口となり、当院は札幌市北区の担当である。平成30年度は1521件と平成29年度の1619件よりは減っているが、28年度は1321件、27年度の1117件、平成26年度の1181件よりも着実に増えている。札幌市内でも五稜会病院は思春期を診ている病院として評判も良いように思う。

入院・退院患者統計

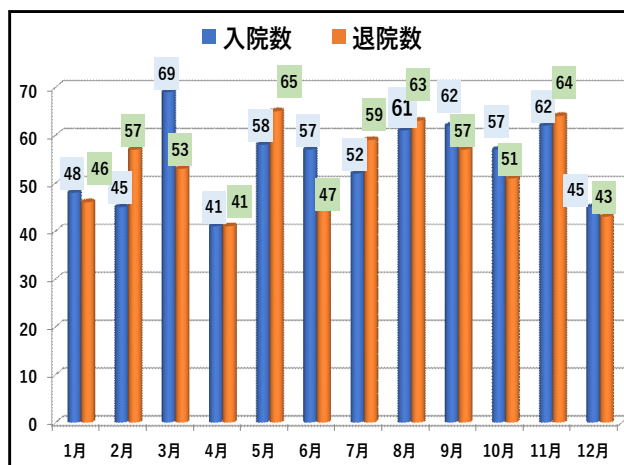
1 年度別入院者・退院者数



平成11年～14年までは入院退院者数は400人台で推移していた。ストレスケア病棟がオープンした平成15年に500人を越えた。平成16年度の急性期病棟運用時から入院退院ともに600人台であった。平成26年の入院は568人と少なかったが、平成28年は673人、平成29年度は699人と大幅に増え、平成30年657人であった。

2 月別入院者・退院者数

月別の入院者で最も多いのは3月、8月であった。特に3月69人と多かった。少ない月は、2月、4月、12月である。2月、4月は例年少ない。退院は5月、8月、11月が多かった。退院は、どうしても週末、月末に集中することがあり、ある程度入院治療の方向性を決めて退院日を設定する必要がある。病院運営とのバランスを考慮する必要がある。



3 性別・年齢別入院者数

性別では女性が7割近くを占める。入院者の年齢は12歳から92歳までで平均年齢は39.6歳である。年齢層は20代、30代、40代が多く、約2割を占める。10代～30代では女性の比率が高く7割である。10～40歳代で3/4を占める。10歳代は95人(14.5%)と前年よりも2ポイント増加。50代、60代合わせて2割、70歳以上は26人(4.0%)、80歳以上は6人のみの入院であった。

年代	男	女	総計	%
10歳代	24	71	95	14.5%
20歳代	21	87	108	16.4%
30歳代	42	79	121	18.4%
40歳代	59	103	162	24.7%
50歳代	28	51	79	12.0%
60歳代	22	44	66	10.0%
70歳代	6	14	20	3.0%
80歳代	1	4	5	0.8%
90歳代		1	1	0.2%
総計	203	454	657	100%
%	30.9%	69.1%	100.0%	

4 入院回数

初回入院が291人(44.3%)である。2回目が111人(16.9%)、5回以上の入院者は140人(21.3%)。

入院回数	初回	2	3	4	5回以上	総計
人数	291	111	72	43	140	657
%	44.3%	16.9%	11.0%	6.5%	21.3%	100.0%

5 入院時診断

多いのはF2(統合失調症圏)、F3(気分障害)、F4(神経症圏)で、それぞれ160人(24.4%)、195人(29.7%)、146(22.2%)であった。この3つの疾患で3/4を占めている。F6(パーソナリティ障害)は8人(1.2%)と少ない。F8(発達障害圏)が42人(6.4%)と前年度の31人より増加した。F1(アルコール依存症)は34人(5.2%)、摂食障害等のF5(生理的障害)は25人(3.8%)であった。この中には、PSG検査入院も含まれる。

F分類	男	女	総計	%
F0	2	3	5	0.8%
F1	27	7	34	5.2%
F2	53	107	160	24.4%
F3	59	136	195	29.7%
F4	42	104	146	22.2%
F5	2	23	25	3.8%
F6	1	7	8	1.2%
F7		12	12	1.8%
F8	11	31	42	6.4%
F9	3	22	25	3.8%
G	3	2	5	0.8%
総計	203	454	657	100%

6 年代別診断分布(次ページ)

年代別の診断分布を示す。20歳代から50歳代にわたって、F2(統合失調症圏)、F3(気分障害)、F4(神経症圏)が多い。最も多いのは40歳代のF3で71人、次いで40歳代のF2の40人、10歳代のF4の39人である。10歳代はF8(発達障害)、F9(注意欠如多動性障害)が多い。20歳代はF4が、30歳代以上は、F3(気分障害)が多い傾向にある。

7 入院形態・入院病棟

任意入院が 523 人（79.6%）の 4 分 3 で、医療保護入院は 127 人（19.3%）と 5 分 1 である。精神科医療の基本は本人自らの希望での入院である。なるべくは本人の希望での入院が望ましい。応急入院は 2 人、措置入院は 2 人であった。札幌市、北海道では措置入院の割合が少ない。全国的に措置入院の入院基準の曖昧さがあり、是正のために措置入院についてのマニュアルが平成 30 年 3 月に公開された。鑑定入院は 3 人と前年の 7 人よりも減少。入院病棟は 2 病棟が 319 人（48.6%）、5 病棟が 280 人（42.6%）であった。5 病棟は 2 病棟からの転棟者の受入れも多いので、入院者はもっと多い。療養の 1 病棟、3 病棟は、22 人、36 人を受け入れた。非新規の再入院によるものである。

行ラベル	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G	総計
10歳代			8	3	39	8			11	24	2	95
20歳代	1	3	26	15	37	6	3	4	10	1	2	108
30歳代		6	31	34	26	4	5	7	8			121
40歳代		8	40	71	25	4		1	13			162
50歳代	1	8	29	31	8	1					1	79
60歳代		6	21	31	7	1						66
70歳代	2	3	4	7	3	1						20
80歳代			1	3	1							5
90歳代	1											1
総計	5	34	160	195	146	25	8	12	42	25	5	657

入院形態	病棟				総計	%
	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟		
任意	22	189	32	280	523	79.6%
医療保護		123	4		127	19.3%
応急		2			2	0.3%
措置		2			2	0.3%
鑑定			3		3	0.5%
総計	22	319	36	280	657	100.0%
%	3.3%	48.6%	5.5%	42.6%	100.0%	

退院患者

1 年齢・年代別・性別退院患者数

年齢は 13 歳～ 93 歳、平均年齢 39.5 歳であり、40 歳を切っている。年代別では 20 歳代～ 40 歳代が多く、この年代で 6 割を占める。10 歳代は 91 人（14.1%）と前年よりも増加している。70 歳以上は 31 人（4.9%）と昨年と同様である。80 歳代は 5 人、90 歳代は 1 人しか入院していない。性別では女性が 2/3 を占める。全ての年代において女性の比率が高いが、年代別では 10 歳～ 30 歳代での女性比率が高い。

年代	男	女	総計	%
10歳代	25	66	91	14.1%
20歳代	29	94	123	19.0%
30歳代	39	75	114	17.6%
40歳代	56	90	146	22.6%
50歳代	27	53	80	12.4%
60歳代	22	39	61	9.4%
70歳代	8	17	25	3.9%
80歳代	1	4	5	0.8%
90歳代		1	1	0.2%
総計	207	439	646	100.0%
%	32.0%	68.0%	100.0%	

2 入院期間

0 ～ 8,283 日、平均 105.3 日、前年 121.4 日よりも短縮した。期間別では 1 ヶ月未満が 178 人（27.6%）、1 ヶ月以上 2 ヶ月未満が 144 人（22.3%）、2 ヶ月以上 3 ヶ月未満が 204 人（31.6%）と前年とほぼ同様である。3 ヶ月未満の退院が 81.5%、6 ヶ月未満が 92.6%、1 年未満が 97.7%。1 年以上は 15 人。10 年以上の 2 人は、身体合併症での転院と高齢に伴う転院である。

入院期間	退院病棟					%
	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	総計	
1ヶ月未満	7	84	7	80	178	27.6%
1月以上2月未満	12	47	5	80	144	22.3%
2月以上3月以下	21	58	10	115	204	31.6%
3月超6ヶ月未満	23	18	14	17	72	11.1%
6月以上1年未満	18	2	13		33	5.1%
1年以上3年未満	2	3	3		8	1.2%
3年以上5年未満	1	1	1		3	0.5%
5年以上10年未満			2		2	0.3%
10年以上	1		1		2	0.3%
総計	85	213	56	292	646	100.0%

3 退院時診断

F3（気分障害）180人（27.9%）、次いでF4（神経症圏）は161人（24.9%）、F2（統合失調症圏）が146人（22.6%）であるが、前年とほぼ同数である。F1（アルコール依存症等）は28人（4.3%）、F6（パーソナリティ障害）11人（1.7%）と少ない。F5（摂食障害・睡眠障害等）は24人（4.1%）、F0（認知症・器質性）は12人（1.9%）である。F8（発達障害）は42人（6.5%）と増加している。F9（行為及び情緒の混合性の障害・注意欠如多動性障害）は29人（4.5%）と、外来では注意欠如多動性障害の患者数が多いように思われる。

診断名	男	女	総計	%
F0	3	9	12	1.9%
F1	22	6	28	4.3%
F2	51	95	146	22.6%
F3	60	120	180	27.9%
F4	40	121	161	24.9%
F5	2	22	24	3.7%
F6	3	8	11	1.7%
F7	2	9	11	1.7%
F8	18	24	42	6.5%
F9	4	25	29	4.5%
G	2		2	0.3%
総計	207	439	646	100.0%

4 入院および退院した病棟

292人（45.2%）と半数は5病棟からの退院である。2病棟入院後に5病棟に転棟して退院したのは39人であった。急性期は2病棟に入院（49.4%）し、安定してさらなる治療モチベーションがあれば5病棟、1病棟の開放病棟転に転棟しての退院である。2病棟からの退院は213人（33.3%）で、1病棟からも85人（13.2%）が退院している。

入院病棟	退院病棟					%
	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	総計	
1病棟	16	1	1	2	20	3.1%
2病棟	46	202	32	39	319	49.4%
3病棟	14	1	21		36	5.6%
5病棟	9	9	2	251	271	42.0%
総計	85	213	56	292	646	100.0%
%	13.2%	33.0%	8.7%	45.2%	100.0%	

5 退院者の入院時・退院時の入院形態

入院時の入院形態は任意入院が512人（79.3%）を占め、128人（19.8%）が医療保護入院である。退院時に医療保護入院は60人（9.3%）である。医療保護入院での入院者の半数以上76人が任意で退院している。本人の主体的な治療意欲がないと病状の改善も得られない。極力、任意入院では治療が望ましい。措置入院、応急入院は1名ずつ。鑑定入院は4人であった。

入院時入院形態	退院時入院形態			総計	%
	任意入院	医療保護	鑑定入院		
任意入院	504	8		512	79.3%
医療保護	76	52		128	19.8%
応急入院	1			1	0.2%
措置入院	1			1	0.2%
鑑定入院			4	4	0.6%
総計	582	60	4	646	100.0%
%	90.1%	9.3%	0.6%	100.0%	

6 長期入院の退院者

3年以上入院して退院した7人の内訳は、5年以上4人、10年以上は2人。全例が統合失調症者。3人が当院外来に、3人が他の精神科病院への転院であるが、2人は高齢のため、1人は治療環境を変えるため。1人が身体合併症のために身体科に転院し、再度、当院に入院となった。

年代	性	入院期間	入院回数	F分類	転院	病院
40歳代	男	3年以上5年未満	1	F2	無	当院外来
70歳代	女	3年以上5年未満	6	F3	無	当院外来
20歳代	男	3年以上5年未満	4	F6	入院	精神科病院
70歳代	男	5年以上10年未満	7	F4	入院	精神科病院
50歳代	女	5年以上10年未満	7	F5	無	当院外来
40歳代	女	10年以上	6	F7	入院	身体科病院
70歳代	女	10年以上	5	F8	入院	精神科病院

1 対象

平成 30 年 1 月～ 12 月までの退院者 646 人中、退院時に満足度調査の回答が得られた 432 人(67.9%)を対象に分析を行った。回収率の目標は 80%である。

対象者の基礎データ 471 人

年齢 13 歳～ 82 歳（平均 39.4 歳）

性別 男 = 131(30.3 %) 女 = 301(69.7 %)

入院期間 1～ 8,283 日 平均 97.7 日

入院回数 1～ 26 回（平均 3.2 回）

初回 = 205(43.8%)、2 回目 = 75(17.4%)、

3 回目 = 44(10.2%)、4 回目 = 36 (8.3%)

5 回目以上 = 88 (20.4%)

診断別・入院形態

F3（気分障害圏）が最多の 29.2 %を占める。F4（神経症圏）は 24.8 %、次いで F2（統合失調症圏）の 22.2%、の順である。

入院時の入院形態は 8 割が任意入院で医療保護入院は 2 割弱である。応急入院が 1 人、措置入院者は 1 人であった。退院時の退院形態は、任意が 92.6 %と 9 割以上である。

F分類	男	女	総計	%
F0	1	7	8	1.9%
F1	15	5	20	4.6%
F2	36	60	96	22.2%
F3	37	89	126	29.2%
F4	24	83	107	24.8%
F5		11	11	2.5%
F6	1	5	6	1.4%
F7	1	7	8	1.9%
F8	12	18	30	6.9%
F9	4	16	20	4.6%
総計	131	301	432	100%
%	30.3%	69.7%	100.0%	

2 方法

1. 入院治療についての全体的満足度 CSQ-8J (Client Satisfaction Questionnaire)
2. 入院に際する説明、入院中の治療に対する説明
3. 医師・看護婦などのスタッフに対する評価
4. 入院生活の快適さ
5. 家族の評価 等の調査を行っている。

入院形態	退院時入院形態		総計	%
	任意入院	医療保護		
任意入院	341	3	344	79.6%
医療保護	57	29	86	19.9%
応急入院	1		1	0.2%
措置入院	1		1	0.2%
総計	400	32	432	100.0%
%	92.6%	7.4%	100.0%	

3 結果

全体的満足度は 86.2 %、家族では 89.3 %であった。9 割の方が満足であったと回答してくれている。ただし、不満足な方は満足度調査に協力してくれない場合もあるかもしれない。効果的な対処を学べたかが一番評価が高くて 94.7 %であった。ストレス対処の仕方などカウンセリングや集団療法が奏功していると思われた。逆に低い項目は、入院中の快適さ、緑の多さ、作業療法室である。家族では、入院中の説明が 96.8 %と高率に満足の評価が高かった。

項目	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%
1 治療の質	7	99	172	135	307	74.3%
2 望んだ治療か	7	49	236	122	358	86.5%
3 必要としたか	4	122	182	104	286	69.4%
4 推薦するか	4	55	276	78	354	85.7%
5 時間をかけた援助	13	63	218	117	335	81.5%
6 効果的な対処	3	19	237	153	390	94.7%
7 全体の満足	8	49	235	120	355	86.2%
8 治療に戻るか	12	64	229	100	329	81.2%
9 事務員の対応	7	80	181	144	325	78.9%
10 看護婦	9	56	161	182	343	84.1%
11 医師	11	66	154	181	335	81.3%
12 他のスタッフ	3	27	166	215	381	92.7%
13 入院の説明	5	37	180	183	363	89.6%
14 入院中の説明	4	31	184	148	332	90.5%
15 入院生活の快適さ	26	131	135	84	219	58.2%
16a 病室の広さ	6	61	255	58	313	82.4%
16b 廊下幅	9	55	254	62	316	83.2%
16c テイルーム	22	59	228	67	295	78.5%
16d 作業療法室	47	85	205	33	238	64.3%
16e 壁の色	1	79	250	49	299	78.9%
16f 緑の多さ	29	129	155	63	218	58.0%
16g 臭い	24	77	189	88	277	73.3%
16h 清潔度	7	67	216	87	303	80.4%
17 医療費	19	80	206	28	234	70.3%
家族評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%
21 入院説明	3	5	92	150	242	96.8%
22 入院中の説明	6	32	113	97	210	84.7%
23 事務員	3	47	129	75	204	80.3%
24 看護婦	4	39	107	103	210	83.0%
25 医師	6	31	109	100	209	85.0%
26 他のスタッフ	1	22	116	102	218	90.5%
27 医療費	13	69	144	14	158	65.8%
28 全体の満足	3	23	137	80	217	89.3%

全体満足度を「1」とつけた患者さん

8人の患者さんが全体満足度を「良くない」としているが、家族の満足度は高かった。全員が任意入院である。5病棟入院者が多いが、治療への期待度と実際の生活のギャップがあるためであろう。治療内容、治療環境の改善の余地はあると思われる。

年代	性	F	回数	入院期間	入棟	退棟	転帰	転院	家族の満足
50歳代	女	F4	1	1ヶ月未満	5病棟	5病棟	紹介元クリニック	外来	
40歳代	女	F3	1	3月超6ヶ月未満	5病棟	2病棟	当院外来	無	3
10歳代	女	F9	1	1月以上2月未満	2病棟	2病棟	紹介元病院	外来	3
30歳代	男	F4	2	1月以上2月未満	5病棟	5病棟	当院外来	無	
10歳代	女	F8	2	1月以上2月未満	2病棟	2病棟	当院外来	無	3
20歳代	男	F8	7	1ヶ月未満	2病棟	2病棟	紹介元クリニック	外来	3
30歳代	女	F3	1	2月以上3月以下	5病棟	5病棟	当院外来	無	
10歳代	男	F8	1	1ヶ月未満	2病棟	2病棟	紹介元クリニック	外来	

臨床試験について

治験とは国から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことです。

治験では、新しく開発された薬の人での有効性（効き目）や安全性（副作用）などを確認します。現在、世界中で数多くの薬が使われていますが未だに有効な治療薬がない病気も多くあります。これらの病気に対しては効果のある新しい薬の開発が必要です。そのため世界中で新しい医薬品の開発を目指して治験が行われています。当院では積極的に治験に取り組み、新たな薬剤開発に協力しています。

治験審査委員会（IRB）は毎月第3金曜日に開催し、治験内容について審議しています。

IRB審議内容

医療法人社団 五稜会病院 治験審査委員会 — 開催のお知らせ —

1. 開催日時：西暦2018年12月21日（金）12：00～

2. 場 所：医療法人社団 五稜会病院 医局

出席者：中山 誠、藤井 英介、吉野 賀寿美、鈴木 大輔、古瀬 諒二、田中 倉一、井出 瑞門
泉 純一、阿部 重子

9名中／ 名

2. 審議・報告内容-

1. 塩野義製薬株式会社より依頼
(治験実施施設：五稜会病院)

- * 「デュロキシセチン塩酸塩の児童思春期うつ病患者を対象とした第3相臨床試験 プラセボに対する優越性試験-【1701A3631】」
- * 「デュロキシセチン塩酸塩の児童思春期うつ病患者を対象とした第3相臨床試験-継続長期投与試験-【1701A3632】」
審議事項：安全性情報

2. 塩野義製薬株式会社より依頼
(治験実施施設：宇都宮東口ストレスクリニック)

- * 「S-877503の成人注意欠如・多動症患者を対象とした第3相臨床試験(継続長期投与試験【1523A3133】)」
報告事項：終了報告、

3. 大塚製薬株式会社より依頼
(治験実施施設：五稜会病院)

- * 「大うつ病性障害患者を対象としたプレクスピプラゾール補助療法の有効性及び安全性を評価するプラセボ対照、無作為化、多施設共同、二重盲検、並行群間比較試験【331-102-0058】」
- * 「大うつ病性障害患者を対象としたプレクスピプラゾール補助療法の長期安全性及び有効性を評価する多施設共同非盲検試験【331-102-0059】」
審議事項：安全性情報、治験実施計画書改訂

4. 興和株式会社より依頼
(治験実施施設：五稜会病院)

- * 「K-163-SZ第II相プラセボ対照比較試験 陰性症状を有する統合失調症患者を対象とした多施設共同、プラセボ対照、無作為化、二重盲検、並行群間比較試験【K-163-SZ-03】」
審議事項：評価スケール改訂

5. Meiji Seikaファルマ株式会社より依頼
(治験実施施設：五稜会病院)

- * 「ME2112の急性憎悪期統合失調症患者を対象としたプラセボ対照二重盲検比較による検証的試験（第III相）【ME2112-2】」
審議事項：安全性情報、実施状況報告
- * 「ME2112の統合失調症患者を対象とした長期投与試験（第III相）【ME2112-3】」
審議事項：安全性情報、終了報告

<次回 IRB 予定>・・・2019年1月18日（金）12時～